

# 「日本語についての支援」の方法と留意点①

## JSLカリキュラムとは

- ◆日本語の力が不十分なため、学年相当の学習言語が不足し、日常の学習活動に支障が生じている児童生徒に対して、学習活動に参加するための力の育成をはかる。
- ◆学習活動に参加するには日本語は不可欠だが、日本語を習得すれば自ずと学習に参加するための力が身につくわけではない。

## 「日本語で学ぶ力」の育成

- ◆JSLカリキュラムは、日本語で「学ぶ力」を習得させるためのツール。  
日本語「を」教えるためのツールではない。
- 日本語「で」学ぶ                      × 日本語「を」学ぶ  
「日本語で学ぶ力」（日本語で学習に参加するための力）  
↓  
違いを見つける力、関連づけて見る力、表現・説明する力、など
- ◆「日本語で学ぶ力」が十分でない子どもが教科の学習内容を理解できるようになるには、その授業で用いられる「日本語についての支援」が必要。

## 日本語についての支援

①教科固有の語彙や言い回しなど、教科内容と関連して教科ごとに必要とされるもの

※参考：JSLカリキュラム（中学校編）  
数学科 24-25 頁より  
(2) 数学科における学習支援の視点

例) 教師が無意識に使っている数学方言を意識する

「数学方言」とは、日常使っている表現を借用して数学の世界で使用している表現や、数学独特の言い回し、また、国によって違う数学記号などを指す。

たとえば、「直線*ℓ*の上に点Pをとる」といったとき、直線*ℓ*に点Pがあるのだろうか。それとも直線*ℓ*よりも上方に点Pはあるのか。また、「～をとる」というのは、日常では「消しゴムをとる（取る）」「魚をとる（捕る）」「写真をとる（撮る）」などで、「点をとる（平面や空間上にある図形や座標平面上に点をおく、印をつける）」という表現は使われない。このような表現は何度も使っているうちに慣れてくるものだが、日本語が不十分なJSL生徒にとっては、難しいものである。したがって、無意識に使っている「数学方言」を意識し、具体例を示したり、別の表現に変えたりして理解を助けていくことが大切である。

②教科の別にかかわらず、学校での学びのために共通して必要なもの

※参考：JSLカリキュラム（小学校編）  
Activity Unit (AU) 一覧より

※【学習活動】

K-5 AU：わかったことを表現する①  
「わかったことを表現する」

※【活動を行う際に基本語彙として使用する言葉】

よく使う言葉 →  
どんなこと・何・分かる・発表する・言う

※【学習活動に対応した日本語表現】

	働きかけ・発問の表現	応答の表現
基本形	○ どんなことがわかったか発表してください。	○ ～ということがわかりました。
バリエーション	○ わかったことを言ってください。 ○ 何がわかりましたか。	○ わかったことは、～です。 ○ ～がわかりました。